

令和5年第1回市議会定例会が開催されるに当たり、市政に対する所信の一端を申し述べますとともに、市政の諸課題をはじめ提案いたしました議案について、その概要を御説明申し上げます。

最初に、「銀河鉄道999」などの作品で知られる漫画家の松本零士先生が、今年13日に逝去されました。

先生には、敦賀港開港100周年を記念して中心市街地に設置したモニメントや、コミュニティバスへのラッピングなどを通じ、「鉄道と港のまち敦賀」の発信に、大きく貢献いただきました。その御功績を偲び、心から御冥福をお祈り申し上げます。

さて、私が、市民の皆様の御支持をいただき、敦賀市長に就任以来、早や8年が経とうとしております。この期間中、市民が主役のまちづくりをスローガンに掲げ、市政発展に邁進してまいりました。振り返りますと、まさに激動の日々でありました。

市長就任後、最初の4年間では、敦賀1号機の廃炉やもんじゅの廃止措置の決定などによって、これまで半世紀にわたり原子力発電との共存共栄の中で発展してきた本市が、大きな岐路に立たされることとなりました。

2期目となる今任期中には、コロナ禍という未曾有の混乱や、ウクラ

イナ問題に端を発する物価高騰など、急激な社会情勢の変化に見舞われることとなりました。

しかし、こうした時代の波に対応しながら、市民の皆様とともに、種を蒔き、育ててきたものが、今、目に見える形で豊かな花や実を付け始めてきたと感じております。

まず、国の原子力政策の停滞により生じていた地域経済の閉塞感の打破を目指し、「ハーモニアスポリス構想」の策定等を通じて、新産業創出や水素エネルギーの活用等に向けた取組を進めてまいりました。

現在、この構想の趣旨や取組は、「福井県嶺南Eコースト計画」や「福井県・原子力発電所の立地地域の将来像」に盛り込まれ、全県的な取組へと昇華し、関西電力との連携による原子力由来の水素製造や北陸電力との連携による卒FIT電力の地産地消など、自治体という枠を越えた具体的な取組へと繋がっています。

そして、昨年11月には、こうした先駆的な取組だけでなく、産業構造の複軸化や、原子力発電と再生可能エネルギーが両立したモデルを全国に示していくという姿勢が評価され、脱炭素先行地域に選定されるに至りました。

また、市長就任当初、国のエネルギー政策が不透明な中で、それまで電力関係の歳入に支えられていた本市の財政も、将来が見通せないものとなったことから、当面の財源確保を目指す中でふるさと納税に着目し、その推進に取り組んでまいりました。その結果、就任時に年間200万円程度であった寄附金額は、今年度、過去最高となる約85億円を見込むにまで拡大しており、先月25日には、楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー2022において、ふるさと納税賞を2年連続で受賞することができました。本市を応援いただいている全国の皆様と、本市の魅力発信に御尽力いただいている市内事業者の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

さらに、本市の重要課題の一つであった北陸新幹線敦賀開業までの道筋につきましても、駅西地区の整備や国道8号道路空間整備が無事完了し、その他の事業も期間内の完成を目指し進捗していく中で、一定の目処を付けることができたものと認識しており、今後、本市が飛躍していくための礎は築けたのではないかと考えております。

改めて、これまでの市民の皆様の御支援、御協力に対し、心から感謝申し上げますとともに、残された任期におきましても、全力を挙げて職務に邁進してまいります。

ところで、政府は、新型コロナウイルスの感染症法上での位置付けを、大型連休明けの5月8日に、現在の「2類相当」から「5類」に引き下げることを決定しました。

社会・経済活動の正常化に向けた国の方針転換は、北陸新幹線敦賀開業を間近に控える本市にとって、国内旅行やインバウンド観光等に、強い追い風となることが期待されます。

来月13日からのマスク着用ルールの緩和に続き、今後、様々なルールの見直しは、国から具体的に示されることとなります。本市としましては、感染状況や国・県の動向に十分に留意しながら、慎重に対応してまいります。

また、新型コロナウイルスのワクチン接種につきましては、これまで全額が公費負担となっておりますが、4月以降の接種のあり方については、現在、国において検討が進められているところです。

本市としましては、国の具体的な方針を注視するとともに、敦賀市医師会をはじめ関係機関の御協力をいただきながら、引き続き、希望者に対し、迅速かつ安全にワクチン接種が行えるよう準備を進めてまいります。

次に、来る3月18日から阪神甲子園球場で開催されます第95回記念

選抜高等学校野球大会において、敦賀気比高校の3年連続10回目の出場が決定しました。選手の皆さんには、日頃の練習の成果と持てる力を存分に発揮されるとともに、郷土の代表としての誇りを胸に、堂々と戦い、敦賀の名を全国に轟かせていただくことを期待しております。

次に、当面する市政の重要課題について申し上げます。

まず、原子力行政について申し上げます。

昨年8月24日の第2回GX（グリーントランスフォーメーション）実行会議での岸田総理の発言を受け、原子力政策に係る課題について、国の審議会等で検討が進められてきた結果、今年10日に「GX実現に向けた基本方針」が閣議決定されました。

福島第一原子力発電所の事故以降、原子力政策の将来展望が不透明な状況が続き、敦賀市長として、また全原協会長として、あらゆる機会を通じて力強い原子力政策を示すよう求めてまいりました。今回の基本方針では、エネルギーの安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源として、再生可能エネルギーなどとともに原子力を最大限活用するとしており、新たな安全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉の開発・建設や、既存の原子力発電所の活用等に関して、国としての方向性が示されたと受け止めている

ところであります。

電力の安定供給と2050年カーボンニュートラル実現の両立に向けて、安全性の確保を大前提に、既存の原子力発電所の活用とともに、熱効率の高い次世代革新炉への建替に向けた着実な取組を期待するところであります。

次に、防災対策について申し上げます。

今月20日に敦賀市防災会議を開催し、本市の防災対策の基本となる敦賀市地域防災計画を改定いたしました。

今回の改定では、南越前町を中心に甚大な被害をもたらした昨年8月の大雨における対応を踏まえた職員の配備体制の見直しを行うとともに、国及び県の防災計画の改定に伴う事項を反映しました。今後は、この計画に基づき、更なる防災体制の充実強化を図るとともに、災害時に迅速かつ的確に対応できるよう対策を進めてまいります。

次に、マイナンバーカードの普及推進について申し上げます。

昨年末から急増しているカード取得希望者に対応するため、福井県行政書士会敦賀支部等と連携し、商業施設等において申請サポートを実施するとともに、市役所においても休日開庁や平日夜間開庁の日数を更に増や

し、交付体制の強化を図っております。

また、マイナンバーカードを活用したサービスの拡大を図るため、来年春からは、カードを利用して、住民票などが各地のコンビニエンスストア等で取得できるよう準備を進めてまいります。

今後も引き続き、マイナンバーカードの普及推進に取り組み、更なる市民の利便性の向上や、行政の効率化に努めてまいります。

次に、福祉施策の推進について申し上げます。

重層的支援体制整備事業について申し上げます。

近年、8050問題やヤングケアラー、ダブルケアなど課題が複雑化しており、従来の子ども・障がい者・高齢者・生活困窮者といった対象者ごとの支援体制では様々なニーズへの対応が困難な状況となっております。

こうした状況に対応するため、今年度は、関係機関の皆様とともに、包括的な支援体制の構築に向け、体制整備に取り組んでまいりました。

来年度からは、「包括的相談支援事業」をはじめとした5つの事業を一体的に実施し、包括的な支援体制の充実を図ってまいります。

子育て支援について申し上げます。

本年度から、国による伴走型の相談支援制度がスタートいたしました。

本市では、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない相談体制を以前から整えてきており、引き続き、関係機関と連携しながら、妊産婦や子育て世帯が必要とするサービスを充実してまいります。

次に、農業振興について申し上げます。

農業の振興及び地域の活性化を目的に、「地域おこし協力隊」として、先月1名を委嘱いたしました。

今後、「株式会社ミライスつるが気比」を拠点に、住民との交流やSNSを活用した情報発信等を通じて、農業の魅力発信のけん引役として活躍されることを期待しております。

林業振興について申し上げます。

近年、全国的に豪雨災害が頻発していることから、森林災害が発生した際の初動対応の迅速化を図るため、ドローンを用いて被災状況の把握が行える体制を整えます。

また、松原公園の遊歩道につきましては、現在、2年計画で、約1キロの区間を木質チップ舗装とする再整備を進めております。今後も、市民や観光客の憩いの場となるよう、環境の保全に取り組んでまいります。

水産振興について申し上げます。

今年度も、敦賀真鯛や敦賀ふぐの販路拡大に向け、関係機関と連携し、県内外でのサンプル提供やPR販売の支援等に取り組んでまいりました。

その結果、多くの飲食店でメニュー開発が行われるとともに、百貨店のふるさと納税サイトで敦賀真鯛を使った返礼品が扱われるようになるなど、徐々にその成果が現れ始めたと感じているところです。今後も引き続き、敦賀真鯛等の認知度向上とブランド化に努めてまいります。

次に、北陸新幹線の整備について申し上げます。

北陸新幹線敦賀開業まで約1年と迫る中、敦賀駅舎新築工事における外壁工事の全ての足場が解体され、駅の優美な外観が姿を現しており、現在は、内装工事が進められているところです。

本市が整備を行う新幹線駅前広場については、先週から本格的な工事に着手したところであり、令和6年春の開業に合わせ供用できるよう、着実に工事を進めてまいります。

また、来年度には、開業機運の醸成を目的とした駅舎見学会等のイベントを予定しており、今後も市民の皆様に親しみを持っていただける敦賀駅となるよう、関係機関と連携し取り組んでまいります。

次に、駅西地区土地活用について申し上げます。

知育・啓発施設「ちえなみき」につきましては、オープンから5か月で来場者数が14万人を超え、多くのメディアにも取り上げていただいております。今後も引き続き、オッタやオルパークとともに、本市への来訪者の増加や市内への回遊を促す賑わい拠点としての役割を果たせるよう、官民連携して取り組んでまいります。

次に、北陸新幹線敦賀開業に向けた取組について申し上げます。

市内全域を対象に、観光客等の受け皿となる店舗の魅力向上に取り組む事業者を支援する「敦賀市店舗等魅力向上支援事業」につきましては、昨年12月から募集を開始し、これまで6件を事業認定いたしました。

また、民間団体を中心に構成し、本市も参画する新幹線敦賀開業まちづくり推進会議におきましては、昨年3月に決定した誘客キャッチコピー「つるが、発見！」を広く発信し、開業機運を更に盛り上げるため、ロゴマークの募集を今月から開始いたしました。

さらに、来月18日、19日の両日、開業1年前イベントとして「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会主催の「つるが鉄道フェスティバル」が、オッタやオルパークを中心に開催されます。これに合わせて、従来、きらめきみなと館を主会場としてきた観光物産イベントが、駅前や氣

比神宮前といった「まちなか」を会場にして開催されるほか、地元商店街や民間団体等によるイベント、キッチンカーの出店なども、市街地全体で行われます。

新幹線開業に向け、今後も更なる機運醸成を図るとともに、推進会議や市民の皆様と力を合わせて、開業効果を最大限引き出せるよう受入れ体制の整備に取り組んでまいります。

次に、観光振興について申し上げます。

敦賀市観光振興計画につきましては、現行の計画期間が今年度までとなっていることから、令和5年度からの3年間を計画期間とする新たな計画の策定に向け、現在、パブリックコメントを実施しております。

北陸新幹線敦賀開業を見据え、行政・民間企業・関係団体などの具体的な取組方策や行動指針をまとめた新幹線行動計画とも連動しながら、本市の観光資源を最大限に活用できるよう、広域的な連携も視野に入れ、着実に観光施策を進めてまいります。

次に、敦賀港の振興について申し上げます。

海外大型クルーズ客船の運航が約3年ぶりに再開され、来月21日には、「ウエステルダム」が敦賀港に初めて寄港します。

乗船客をはじめ、市外からも大勢のお客様が見学に訪れると予想されるため、鞆山岸壁や氣比神宮周辺でのおもてなしイベントを通じ、「鉄道と港のまち敦賀」を広く発信してまいります。

次に、人道の港関連事業について申し上げます。

先月20日、駐日ポーランド共和国大使館にて、パヴェウ・ミレフスキ駐日ポーランド共和国大使の立会のもと、社会福祉法人福田会の太田孝昭理事長に、2回目となるポーランド人道支援金の贈呈を行いました。

ミレフスキ大使からは、「敦賀市が100年前も今も人道支援していることに対して深く感謝する。」とのメッセージをいただきました。

なお、ムゼウム等で受付を行っているポーランド人道支援金につきましては、来月10日まで募集することとしており、これまでに累計500万円以上の支援が寄せられております。お預かりした支援金は、適宜、福田会ポーランド支部へ送金し、ポーランド国内でのウクライナ避難民支援活動に役立てていただいております。

御支援をいただきました皆様、また、お力添えをいただいた関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

こうした中、令和2年2月に来敦され、ムゼウムを視察いただきました

ポーランド共和国トーマシュ・グロツキ上院議長から、今年の夏に本市の高校生をポーランドへ招きたい旨の書簡をいただきました。

これを受け、ポーランド共和国と、その隣国であり人道の港に関係の深いリトアニア共和国へ本市高校生を派遣し、両国との交流促進を図りたいと考えております。

今後も、こうした国々との繋がりを大切にし、関係機関と相互に連携しながら、「人道の港敦賀」を国内外に向けて強力に発信してまいります。

次に、道路整備について申し上げます。

国道8号敦賀防災事業は、国の公共用地先行取得制度のもと、本市において用地の取得を進めており、現在約7割の進捗となっております。

また、工事の進捗につきましては、赤崎地区において工事用道路の設置等を終え、田結地区ではボックスカルバートの設置工事を進めているところです。

こうした中、先月の降雪では、24日と30日の2度にわたって国道8号が一時通行止めとなり、物流をはじめ、市民生活にも影響が生じました。

本市におきましても、改めて本事業の重要性を認識し、早期完成と南

越前町大谷までの早期事業化を、引き続き国に対し、強く求めてまいります。

笙の川の整備について申し上げます。

河床掘削のための護岸補強工事は、右岸側の河口から松原橋下流まで完了し、松島橋の架け替えにかかる橋台・橋脚工事や松原橋の橋脚補強工事が実施されるなど着実に進捗しております。

また、地域住民の皆様に工事への理解を深めていただくため、昨年12月に現場説明会が開催されました。さらに、先月26日には、二級河川笙の川整備促進協議会の会長として、国土交通省水管理・国土保全局長に対し、事業を強力に進めるために必要な予算の確保を強く要望しました。

今後も市民の皆様のお安全安心を確保するため、関係機関と連携し、引き続き、工事が着実に進むよう努めてまいります。

次に、中学校における部活動の地域移行について申し上げます。

令和3年度から2年間、市内中学校の吹奏楽部が、国の地域部活動推進事業の研究指定を受けて実践研究を進め、今月、生徒や関係者を対象に、これまでの活動に関する総括アンケートを実施しております。

新年度からは、研究で得られた成果や課題を踏まえながら、国の新た

なガイドラインに基づき、吹奏楽部以外の部活動においても、段階的な地域移行を進めるとともに、生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現に向け、受入れ可能な団体の拡充や支援等に取り組んでまいります。

次に、文化振興について申し上げます。

国指定史跡武田耕雲斎等墓につきましては、史跡を一体的に整備し活用するため、ガイダンス施設の整備経費を新年度予算に計上いたしました。

市指定文化財水戸烈士記念館（旧鯉蔵）につきましては、昨年度、解体工事を行い、現在、移築復元工事を進めているところですが、部材調達に日数を要していることから、工期延長に伴う繰越明許費等を今回の補正予算に計上いたしました。

みなとつるが山車会館について申し上げます。

みなとつるが山車会館につきましては、北陸新幹線敦賀開業に向けて、昨年度からシアター室の改修や展示空間のリニューアル等、施設整備を進めております。引き続き新年度は、コロナ禍で中止となっていた敦賀まつり等の映像制作や、会館の玄関及びロビーの装飾などを行い、山車の魅力を広くPRしてまいります。

次に、スポーツ振興について申し上げます。

2016年のリオデジャネイロオリンピック及び2021年の東京オリンピックの女子レスリングにおいて、金メダルを獲得された金城梨紗子選手が、先月31日に来庁されました。

金城選手からは、今年4月から、敦賀気比高校の特別顧問として、部活動の生徒や市内の子ども達への指導を通じ、地域貢献に御協力いただく予定であること、また、2024年のパリオリンピックに向けて挑戦をしていく意向であることをご報告いただきました。

本市としましても、金城選手の挑戦を応援するとともに、世界で戦う姿を通じて、スポーツの素晴らしさや奥深さを広く市民の皆様に伝えていただけることを期待しております。

次に、公共下水道の汚水処理状況等について申し上げます。

現在整備中の事業認可区域における下水道処理人口普及率につきましては、今年度末において87.6パーセントになる見込みであり、今後も本市の生活環境の改善、公共用水域の水質保全を図るため、計画的に未普及地域の解消に向けた整備を進めてまいります。

また、市街地の浸水対策につきましては、確実に安定した排水能力を確保するため、雨水幹線の整備と併せて、老朽化した松島ポンプ場の改築を

進めてまいります。

次に、統一地方選挙について申し上げます。

4月に行われる統一地方選挙におきまして、本市では、4月9日に県知事選挙、県議会議員選挙が、4月23日に市長選挙、市議会議員選挙が執行されます。

今回の選挙からは、投票者の利便性の向上を図るため、市役所に加えてアル・プラザ敦賀に期日前投票所を増設することとし、準備を進めております。

投票日当日に、仕事や旅行などで投票に行けない方は、期日前投票の積極的な活用をお願いいたします。

次に、今回提案いたしました令和5年度当初予算案の概要について申し上げます。

新年度当初予算案につきましては、この4月に市長及び市議会議員選挙が執行されるため、骨格予算とし、重要な施策の肉付けは選挙後の補正予算において対処することといたしました。

したがって、人件費等の義務的経費及び經常経費につきましては年間所要額を、投資的経費のうち継続事業や北陸新幹線敦賀開業に係る経

費等、早期に予算措置を必要とするものについては所要見込み額を計上し、市民生活や円滑な事業実施に支障が出ないように配慮した次第であります。

こうして編成した当初予算案は、

一般会計	378億5,917万8千円
特別会計	139億6,710万5千円
企業会計	160億6,564万7千円
合計	678億9,193万円となりました。

これを、前年度当初予算と比較いたしますと、一般会計1.3パーセントの増、特別会計0.6パーセントの増、企業会計3.5パーセントの減、予算総額では0.03パーセントの減となったものです。

主な事業につきましては、別紙お手元に配布のとおりですが、以下、先に申し上げたものを除き、予算編成方針の重点施策に掲げました3つの項目に従い順次御説明申し上げます。

まず、「新幹線開業に向けたにぎわいの創出」につきましては、「北陸新幹線敦賀開業プロモーション事業」として、市内の開業機運を醸成するプロモーションと、首都圏を中心とした市外での認知度向上を図るプロモーションの両面から広報活動を展開します。

令和6年秋に開催される北陸デスティネーションキャンペーンに向けて、来年度、全国の旅行会社を対象として開催される全国宣伝販売促進会議等において本市のPRを行います。

敦賀まつりにおいて、北陸新幹線沿線の自治体と連携した特別イベントの実施を予定しています。

中心市街地で実施される民間主体のイベント等への支援を拡大するとともに、市内全域を対象エリアとして、新幹線開業の機運醸成に繋がるイベント等を支援します。

新たに敦賀駅東口が整備されることに伴い、車による来訪者を駅の西口・東口等へスムーズに誘導できるよう、道路標識の新設や修正を行います。

コミュニティバスの一部に、新幹線開業をPRするラッピングを施し、機運醸成を図ります。

次に、「子育て環境日本一の実践」につきましては、快適な保育環境を維持するため、公立保育園や子育て総合支援センターにおいて、空調設備の計画的な改修を進めます。

公立保育園における安全性向上のため、屋外にカメラを設置します。

I C Tを活用した教育を推進するため、市内全小学校の体育館で学習用端末等が利用できるよう、無線L A N環境を整備します。

次に、「グリーン&デジタル都市への挑戦」につきましては、コミュニティバスやぐるっと敦賀周遊バス等において、利用者の利便性向上を図るため、北陸新幹線敦賀開業に合わせ、来年春からのキャッシュレス決済導入を目指します。

健康アプリ「敦とんあるこ」において、市民の健康づくりへのモチベーションの向上・継続を図るため、歩数に応じたバーチャルツアーの新規コースの設定や、脳トレ機能の追加などを行います。

敦賀病院において、更なる安全性の向上と業務の効率化を図るため、電子カルテシステムと連動したナースコールシステムに更新します。

次に、一般会計の歳入予算について申し上げます。

歳入予算につきましては、景気の動向や国の地方財政対策等を十分勘案のうえ、見込み得る確実な財源を計上し、収支の均衡を図りました。

このほか、地方譲与税等については、地方財政計画に基づき見込み得る確実な額を、国・県支出金につきましては、事業ごとに見合う額を計上いたしました。繰入金は、ふるさと応援基金をはじめ、事業目的に見合う特

定目的基金から繰入れを行います。市債につきましては、適債事業等を精査して計上いたしました。

以上が当初予算案の概要です。

続いて、同時に提案いたしました令和4年度3月補正予算案について、その概要を申し上げます。

今回の補正予算案は、事業の完了や財源の確定に伴うもののほか、早期に予算措置を必要とするものについて計上いたしました。

まず、一般会計では、物価高騰により影響を受けている障がい福祉サービス事業所、介護サービス事業所及び私立保育園等を支援するための予算を計上いたしました。

その他の補正予算といたしましては、職員の早期退職に伴う退職手当のほか、福井県が実施する道路整備事業や敦賀西部地区土地改良事業の負担金を計上いたしました。

一般会計の歳入につきましては、国・県支出金について、これまでの決定額あるいは現在見込み得る確実な額を計上するとともに、各種基金利子などの財産収入、市債等の調整を行い、収支の均衡を図りました。

次に、特別会計につきましては、国民健康保険特別会計において、保険

給付費の不足見込み額を、介護保険特別会計では、前年度決算における剰
余額確定等に伴う基金積立金を計上いたしました。

以上の結果、今回の補正予算案の規模は、

一般会計	1億9,897万5千円の減
特別会計	1億8,824万1千円の増
企業会計	1,028万6千円の増
合計	44万8千円の減となり、

補正後の予算総額は、

一般会計	448億6,806万9千円
特別会計	140億9,881万円
企業会計	169億9,958万7千円
合計	759億6,646万6千円となりました。

その他条例案などの各議案につきましては、いずれも記載のとおり
の理由により提案いたしました。

次に、本市にお寄せいただきました寄附金品は、別紙お手元に配布の
とおりです。その御厚志に対し各位とともに、市民を代表して厚く御礼を
申し上げます。

以上、私の市政に対する所信の一端と今回提案いたしました予算案などについて御説明申し上げます。

何卒慎重に御審議をいただき妥当なる議決を賜りますようお願い申し上げます。